

U-32YoungOfficials'Camp2016 参加レポート

中国ブロック 山口県 柳田 雅人

期間 2017年1月7日～1月9日

場所 東京都代々木体育館

講師 阿部哲也氏・宇田川貴生氏・片寄達氏・平育雄氏・安西郷史氏

JBA：上田篤拓氏・岩田千奈美氏・高森英樹氏

タイムスケジュール

7日(土)		
13:20	集合	
13:30	開講式	1) JBA部長挨拶 2) 講師紹介 3) 諸連絡
14:00～14:40	講義①	・審判「早期育成」について…平育雄氏 ・「ガイドライン」解説…宇田川貴生氏/安西郷史氏
15:00～	観戦	AJ女子準決勝 <u>どのようにガイドラインが運用されているか</u>
17:00～19:00	講義②	・観戦を通してどう感じたか ・3POメカニックス…上田篤拓氏 ・その他
	終了	
8日(日)		
9:00	集合	
9:15～11:15		・FADP 国際審判研修講義 聴講 リオオリンピックを終えて…日本代表女子監督 内海 知秀氏
	昼食	
12:00～	観戦	AJ男子準決勝 <u>ガイドラインの運用・3POを意識して</u>
15:00～17:00	講義③	・映像研修…片寄達氏/上田篤拓氏/AJ男子準決勝担当審判員 (試合の映像を見ながら振り返り…Bリーグ担当審判員が、普段どういう事をしているのか)
17:00～	観戦	AJ女子決勝 <u>これまでの講義①～③考えながら</u>
	終了	
9日(月)		
9:45	集合	
10:00～10:30	講義④	・映像・語学…上田篤拓氏 (・実際のgameの映像を見て、そのプレーについて自分の意見を英語で回答。 ・英語の自己紹介を聞いて、内容をメモ…Writing)
10:30～11:45	講義⑤	・映像・プレイコーリング…宇田川貴生氏/片寄達氏/上田篤拓氏 (何となく嫌だなあ…をなくして、ルールブック・ガイドラインに照らし合わせて、 ○○が○○だから、ファールorノーファールを判定する事) <u>審判の説明責任</u>
12:00～	閉講式	
14:00～	観戦	AJ男子決勝(希望者)
	終了	

講義①) 1) YOC・早期育成の目的(平講師)

- ・早い段階から国際審判資格取得へのモチベーションを高める
- ・早い段階から国内のTopGame・審判・分析等に触れる機会をもつ

国際審判になる為に求められる事【35歳未満である事・国内S級資格を有する事・体格・英語力】

- ・国際審判を目指す為には、職場や家庭の環境もとても大切である
派遣期間の目安：オリンピック→3週間、アジア大会→10日間
- ・具体的な計画を立てる事(何年後にS級を目指すのか?・ビルドアップの方法は?・英語力をつけるには?)
- ・S級を目指す為には…割り当てをもらう事(B級なら県決勝・A級ならブロック決勝)
割り当てをもらう為には普段の振る舞いも大切で、審判がどのような目で見られているか常に意識する事。

講義①) 2) 「ガイドライン」の解説(宇田川講師/安西講師)

◎ガイドラインとは、ルールブックをゲームにどうやって適応するかのガイドラインである。

- ・今まで On the court で (何となくファール) (感じでファール) を取り上げていないか。X
(何か嫌だな) という Play を分解して、「なぜ」を明確にする事。

→その為には何を見なくてはいけないのか。→どういう見方をするのか。

そして、Action と Reaction をはっきりとさせる事。その為に3POで1つのプレーを長く見る事が大切である。

講義②) 1) 試合を通して、その他(宇田川講師/上田講師)

- ・試合後の記憶だけで振り返るよりも、実際の映像を、スローや巻き戻し、ストップなどを有効に使ってより具体的に振

り返る事が大切である。同じケースを振り返る時も「ルールブック」「メカニクス」「ゲームコントロール」などといくつかのアングルから考える事。

講義②) 2) 3PO メカニクスについて (上田講師)

- ・メカニクスを正しく理解し、クルーの3人が相手を意識しなくても正しいローテーションができる事が理想。

トレイル：ボールの2ステップ後ろで、2ステップ外側

リード：ベースラインに対して45°でリングの先端が見えるようにアウトサイドイン

センター：フリースローラインの延長線上、サイドラインと平行でサイドラインよりも内側

3POも2POもアングルを求めてアジャストする事に変わりはない

FADA 国際審判研修講義 聴講 リオオリンピックを終えて (内海講師)

リオオリンピックを終えて、世界とアジアそして日本の判定の違いや、世界の技術について様々な内容を聞かせて頂いたが、そのなかでも印象的だったのは日本代表チームでも、審判やルールにアジャストする為の練習をされているという話でした。だからこそ国内でも世界レベルの判定を求められ、それが選手のレベルアップにつながるのだと感じた。

講義③) 映像研修 (片寄講師/上田講師/担当レフェリー)

試合でUFなどトラブルが起きた時に特に意識する事

- ・ファールオンされた選手は誰か
- ・ボールのステータス「コントロール」「ショットの有無」「ゴールの有無」
- ・時間の管理「ゲームクロック」「ショットクロックの残り時間」・ベンチの管理

上記の内容を3人で協力して確認する事

そして、コート内が落ち着いたら3人で集まって情報を共有し、その後の処置まで確認する事

◎リスタート後は、選手やベンチの集中力・エネルギーの向く方向をしっかりと修正して、選手・ベンチ・お客さんがバスケットボールに集中できるゲームに戻す事が大切である。敏感になり過ぎて逆にゲームを壊してしまうことがあるので、そういう時こそ当たり前の事を当たりまえにする。

- ・担当ゲームで大きな現象があった時は、映像を確認して振り返るときに、その前に何か起きていなかったかを確認して、トラブルを未然に防げなかったかを考える。

講義④) 映像・語学研修 (上田講師)

- ・日本人は英語に対しての苦手意識が強いが、日常会話の一文を英語に変えてみたり、審判でのワンフレーズを英語で考える事を一日少しずつでも繰り返すことが大切である。
- ・自分の得意分野の話を持っておく事も大切で、コミュニケーションのきっかけになり、自分の得意な話題の単語は聞き取りやすいというメリットがある。

講義⑤) 映像・プレイコーリング (宇田川講師・片寄講師・上田講師)

- ・ゲーム前のミーティングではしっかりとスカウティングを行い、映像も使ってクルーで情報を共有する事がゲームに臨むための大切な準備の一つである。
- ・メカニクなど分っている事でも声に出して確認することも大切
ミーティングが充実すればするほど、先入観や思い込みで、判定が左右される事もあるので気を付けなければいけない。
情報を頭に入れてアングルを求める為に活用し、判定はその場で起きた事実を取り上げる事。

まとめ

まずは、講師の方をはじめ JBA の皆様、地元学連の皆様、そして今回の研修会に携わって頂いたすべての皆様、大変お世話になりました。また、このような貴重な研修会に参加させて頂いたブロック・県の審判委員会の皆様ありがとうございます。今回の研修では、ガイドラインや3POについて勉強させて頂き、ゲームを観戦しては振り返り、研修会が進むにつれてゲームを見る感覚が変わっていく事を感じて、少しずつ身についているのだと体感することができました。研修会冒頭で、「今回学んだことをブロック・各県にしっかりと持ち帰って下さい」と平講師がおっしゃっておられた通り、自分が学んだことを少しでも多くブロック・県に伝えて、恩返しができたらと思います。そして、自分自身も、高いモチベーションをもって、S級、国際審判を目指してこれからの活動に励んでいきたいと思ひます。